

令和5年度定時総会開催

令和5年7月1日（土）午後2時より江陽グランドホテルにおいて、同窓会代議員・役員による定時総会が開催されました。始めに司会の鈴木昇同窓会相談役より定時総会成立の報告がありました。

続いて、高柳元明同窓会長の挨拶があり、「新型コロナウイルス感染症の影響により4年ぶりに皆様にお会いできることを大変嬉しく思っております。この定時総会で新同窓会長が選任され、会長の職を辞する事になります。22年間の長きにわたり同窓会長を務められたのは、同窓会員の皆さまのご協力とご支援のおかげであります。」との感謝の言葉が述べられました。

その後、米澤章彦幹事（昭和55年卒）が議長に選出され、渡辺千寿子幹事（平成5年卒）が書記に指名されて議事が開始されました。

議事内容は以下の通りです。

【報告事項】

1、令和4年度 事業報告の件

- 1) 令和5年度 支部及び同期会等の活動予定の件
- 2) 会員数（令和5年3月末現在 24,608名）医学科2期生 92名含みます。
- 3) 支部及び同期会の活動状況の件

以上について、町田浩一常任幹事（昭和59年卒）より資料に基づき報告がありました。

4) 同窓会報の発行状況（121号、122号）の件

藤村 茂幹事（同窓会報編集委員長・昭和63年卒）より資料に基づき報告がありました。

5) 令和4年ホームカミングデイの中止報告の件

藤村 茂幹事より新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった報告がありました。

6) 令和5年度支部及び同期会等活動予定の件

町田浩一常任幹事より資料に基づき報告がありました。

【協議事項】

1 令和4年度決算報告の件

佐々木健郎会計幹事（昭和62年卒）より同窓会決算書及び運営基金会計決算書（1面に掲載）の説明があり、全会一致で承認されました。

2 令和4年度監査報告の件

加藤君子監事（昭和49年卒）より前項の決算報告について、監査の結果全て正確であった旨の報告があり全会一致で承認されました。

3 令和5年度事業計画（案）の件

1) 役員会、定時総会および懇親会の開催の件

町田浩一常任幹事より資料に基づき報告がありました。

2) 同窓会報発行（123、124号）及び令和5年第6回ホームカミングデイ開催の件

藤村茂幹事より本年発行の同窓会報第123,124号の発行及び、新型コロナウイルス感染症の影響により開催延期となっていた令和5年「第6回ホームカミングデイ」が4年ぶりに開催する旨の説明がありました。

以上について全会一致で承認されました。

4 令和5年度 予算(案)の件

佐々木健郎会計幹事より、同窓会予算書及び運営基金会計予算書(1面に掲載)について説明があり、役員会の議を経て新たに予算計上された以下の2項目について詳細な説明がありました。

同窓会からの母校生涯学習援助金は医学部卒業生が出たことから50万円から70万円に増額しました。

母校卒業謝恩会ご祝儀については医学部卒業生に対する援助も含めて100万円から150万円に増額しました。

これについて諮ったところ全会一致で承認されました。

5 同窓会会長選出(案)の件

柴田信之同窓会副会長(昭和54年卒)より、同窓会会長選出(案)について下記のとおり詳細な説明がありました。

6月3日(土)に開催された同窓会役員会においては、新会長の推薦にあたり、同窓会会則に基づき、また、同窓会各支部、代議員・役員から寄せられた意見等を参考にして選任を行うこととなりました。

会長選任に関わる同窓会会則の基本的な規定条項は以下のとおりとしました。

【第2条】本会は、会員相互の親睦をあつくし、東北医科薬科大学の発展に資する事を目的とする。

【第10条】会長は、正会員の中から役員会の推薦等により、総会において選任する。

【第13条第2項】副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代理する。

上記規定を基本において、新同窓会長の候補者の推薦にあたり、次の3つの要件を満たす方を選考することになりました。

- ① 大学の薬学部及び医学部の状況を概ね把握している方。
- ② 大学及び同窓会室と緊密に連絡が取れることが望ましいため宮城県内に在住の方。
- ③ 会則第2条(上記参照)にある同窓会の本来の目的である先輩会員と後輩会員を繋いで親睦を深めていくことの必要性から、年齢を問わず会員と連携が取れるような人材。

また、今回の会長選出には、会則第13条第2項(上記参照)は該当しないが、副会長が最も有力な候補者として皆様に賛同していただけないかとの意見の一致がありました。

各支部から連絡のあった会長推薦者及び選任方法については次のとおり報告がありました。

ア、「東京支部」④現職の副会長を会長に推薦 ⑤河端昭雄参与(昭和47年卒)の立候補イ、「苫小牧支部」渡邊善照東京支部長(昭和48年卒)を推薦

ウ、「札幌支部、栃木支部、静岡支部」現職の副会長を推薦

エ、その他の支部につきましては、推薦者無し、回答無し

上記の推薦要件及び各支部からの推薦者等の報告に基づいて、役員会において審議した結果、一條 宏副会長(昭和51年卒)を新会長候補者として総会に推薦する事が決定しました。

これについて、代議員より以下の質疑がありました。

①同窓会長選出方法について

支部活動を活発に行っており、その実績より同窓会長へ立候補しました。しかし、役員会での推薦から外れていました。来年の役員改選では、私を含めて4人～5人くらい立候補者を立ててこの場で議論して会長を選んでいただきたいと思います。

②同窓会各支部への会長選任方法についての調査依頼について

支部では現職の副会長が適任であるとの推薦をしましたが、議長の個人名の文書で、東京支部長渡邊善照先生へ会長の選任方法等について支部の意見を聴取する依頼を直接行った経緯について端折っておられるので経緯を説明していただきたい。松本栃木支部長と渡邊善照東京支部長の連名で文書を作成し各支部へ送付しましたが、我々が他の支部長より誤解を受けている。

③また、新同窓会長の任期は残任期間の1年か2年のどちらであるのか。

議長より、上記の質問について、下記のとおり説明を行った。

母校在職中に渡邊善照先生には授業等で大変お世話になったこともあり、また、同窓会21支部の中で東京支部は会員数が多いという観点から先生が適任だろうと判断して取りまとめをいただいた。ただ、取りまとめとなると非常に労力を要するため、各支部から上がってきた意見等を同窓会事務局にあげてほしい旨の連絡を行った。

昨年発行の同窓会報第122号(12月19日発行)の定時総会議事録に掲載のとおり、次年度までに、役員・同窓会各支部等同窓生の皆様からいただく意見を取り入れながら同窓会長を選任していきたいと発言をしたため、東京支部長へ連絡をお願いした。

新同窓会長の任期は、任期途中の交代であるので残任期間の1年間となる。

議長より、以上について諮ったところ、原案通り承認され、一條宏副会長が新会長に就任することが承認されました。

一條宏新会長より次のとおり挨拶がありました。

代議員の皆様より同窓会長に選任いただいたことに心より感謝申し上げます。さらに同窓会の運営に携わることを光栄に思っております。同窓会には本学が掲げる教育の理念を踏まえ、同窓会の関係者が一丸になって母校の発展に貢献することが求められております。さらに新たに医学部の学生に同窓会に加入していただいております。連携を深めていくことで学校法人としての価値を高めていくことができると思います。引き続き皆様からのご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

続いて高柳元明前会長より次のとおり挨拶がありました。

一條会長が後任に決まったことで正直ほっとしております。任期の途中で残念ではございますが、体調を考慮して退任することにしました。新会長が決まって大変嬉しく思っております。今後とも一條会長を支えてほしいと思います。

振り返ってみれば約20年間、理事長、学長、同窓会長職を務めてきましたが、これもひとえに同窓生の皆様や学生、教職員のおかげと感謝する次第です。

代議員・役員の皆様、今後とも一條会長を支えてバックアップしながら、尚一層のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

6 令和5年度 名誉会長及び顧問・参与推薦（案）の件

柴田信之同窓会副会長より、本年6月の役員会において、今期で同窓会会長を退任される会長 高柳元明氏（理事長）を名誉会長に推薦する件、また、同窓会会則第5章17条 「本会は学校法人東北医科薬科大学理事長、又は学長を顧問に推戴することができる」という規定により東北医科薬科大学学長大野勲氏を同窓会顧問に推戴する事が承認されました。

令和4年10月28日に同窓会茨城支部長を退任された福地源一郎氏（昭和46年卒）を参与に推薦する事が承認されました。

本総会で承認をいただきたい旨の提案がありました。

議長より、これについて諮ったところ、全会一致で承認されました。

7 その他

議長は追加発言及び質問を諮ったところ代議員から次のような意見がありました。

① 新会長が決まってほっとしております。高柳元明同窓会長長い間ありがとうございました。

新会長にお願いがございます。来年までに次の2つの案を意見として提出します。同窓会則の他に「同窓会長選任規定」を設けていただきたい。選出方法が不透明であり、今の会則だけでは不十分ではないでしょうか。同窓会長は格段に責任のある役職であるため、きちんとみんなが納得した方法で決めるべきです。分かりやすいように選任規定を作成し選任してほしい。次期会長に立候補したやる気のある方がおり、「骨を埋める」という覚悟で臨む人もいます。

今回の会長選につきまして全国の支部長と意見交換を行いました。個人的な意見ではなく、同窓会に対して色々な考えや意見がありました。役員会のあり方については、現在はほとんどの方が宮城県在住の方が選ばれている。本部役員の中に全国各地の同窓生の方を本部役員に入れてほしいと考えます。

これについて高柳元明名誉会長より次のような意見があった。

各支部それぞれ頑張っているという事が分かりましたが、「骨を埋める」くらい頑張っているとの発言は非常に危険です。私が会長に就任した当時は、支部長になったらなかなか辞めない方もおり、何名かの支部長へ連絡し退任してもらった経緯がある。支部長が退任しないので結果的に支部が活性化しなかった。むしろ支部長の任期を決めてほしい。若い世代に繋いでいく。各支部の代替わりをしてほしい。

①の代議員より発言があった。

言葉に誤解がありました。我々支部長が永遠と命が亡くなるまで支部長をやりたいという気持ちもありません。支部の活性化についても茨城支部のように世代交代をしている支部もあります。

議長より、代議員より頂いたご意見を今後役員会で検討していきたい旨の示唆があった。

②の代議員より発言があった。

- ④ 顧問の総会への出席について規定に条文が記載されていない。会則を適正にするための検討委員会を立ち上げていただきたい。そのような会に参加したい。
- ⑤ 同窓会長への質問ですが、会則では副会長は3名です。一條会長が抜けた現副会長の選任をどうするのか。また、本日選任するのか後日選任するのか。
- ⑥ 支部代議員・年次代議員の他に部活動の中からも部活年次代議員を出すのはどうか。ワングル部は今でも集まりがあるようです。縦の繋がりがあり、活動が活発である。そういう方々にも役員になってほしいと考えています。

③の代議員より発言があった。

薬剤師の集まりの感覚で話していらっしゃる。同窓会には既に新たに医師が入っている。将来的には、薬学部と医学部の同窓生が東北医科薬科大学同窓会という組織の中で、医師と薬剤師という立場で親睦と交流を深めあうことができるような同窓会になることを願います。

④の代議員より発言があった。

④先ほどの副会長の選任は本日の定時総会で行うのか、それとも次回なのでしょうか。

⑤支部によって立場が違う。支部会を開くには広すぎて俊敏な活動ができるわけではない。広い範囲で活動しているため、電話等の連絡しながら親睦を図っている。エリアが狭い支部と広い支部では立場が違う。また、同窓会について何かを成し遂げる目標が見えない。同窓会は懇親会が出来たらいいという事なのでしょうか。新しい会長が目指す同窓会についてどのようなお考えか方向性を教えてほしい。

以上の質問について一條宏同窓会長より次のように回答があった。

副会長の補充選任に関しては検討し、後日報告したいと思います。

同窓会の目的は卒業生と母校をつなぐ懸け橋の役割であると思っている。母校の素晴らしさを社会に伝える大切な役割がある。そういうことを前提に同窓会に関わっていきたいと考えている。代議員・役員の皆様には変わらぬご支援をいただきたい。

議長より、皆様から貴重なご意見をいただきました。このことを踏まえて、今後役員会で検討していきたい旨の示唆がありました。

8 閉 会

議長より閉会の言葉が述べられ、全議事を終了し、午後4時に閉会いたしました。